

第22回 KTSM 実技セミナー（広島）開催報告

基礎&アドバンスコース

【開催概要】

会期：2015年12月12日（土）9:00～17:15

（基礎コース 9:00～13:00, アドバンスコース 9:00～15:50

実技認定審査 16:15～17:15）

会場：日本赤十字広島看護大学

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会

後援：大塚製薬工場

ラックヘルスケア株式会社

日清オイリオグループ株式会社

株式会社クリニコ

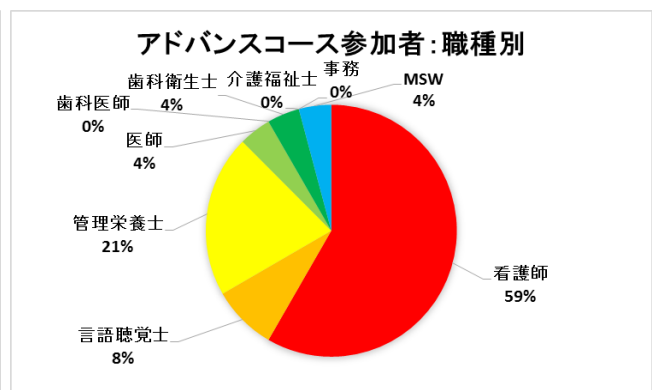
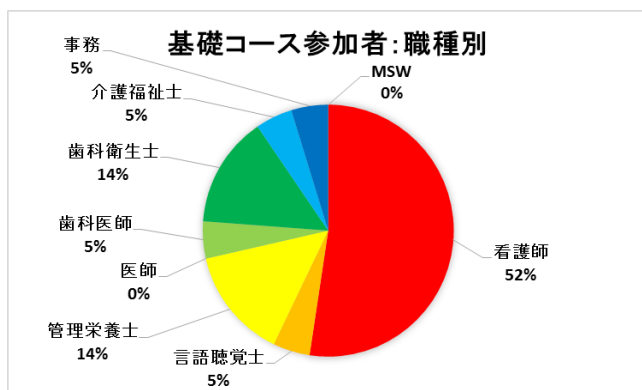
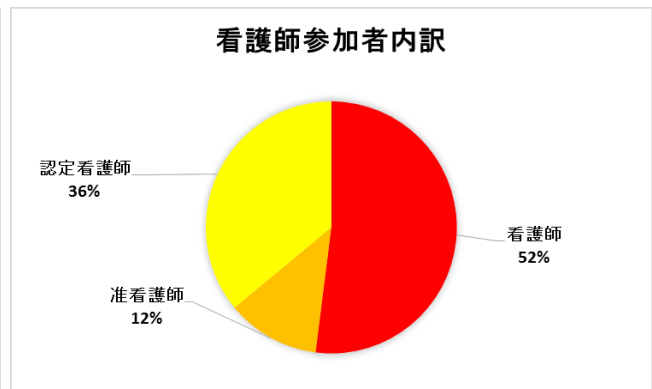
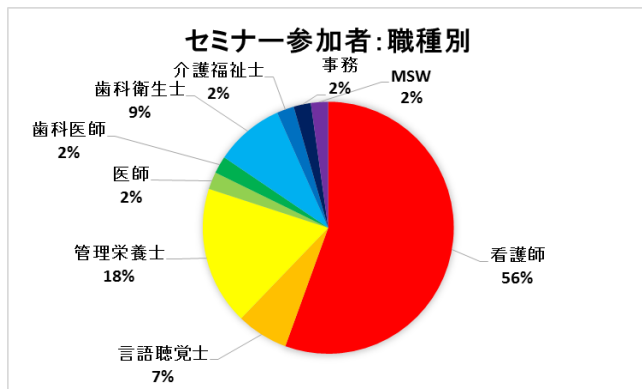
セミナーテーマ：経口摂取実現のためのベッドサイドスクリーニング評価と食事介助

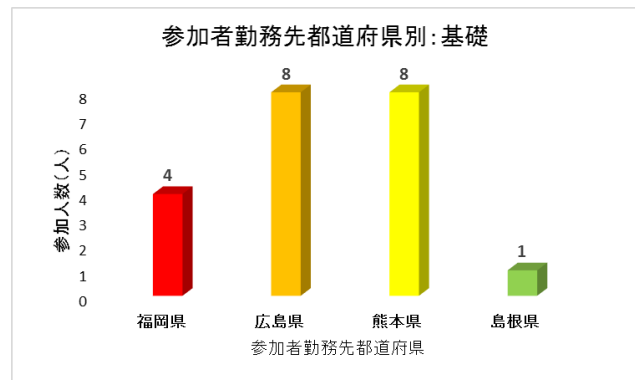
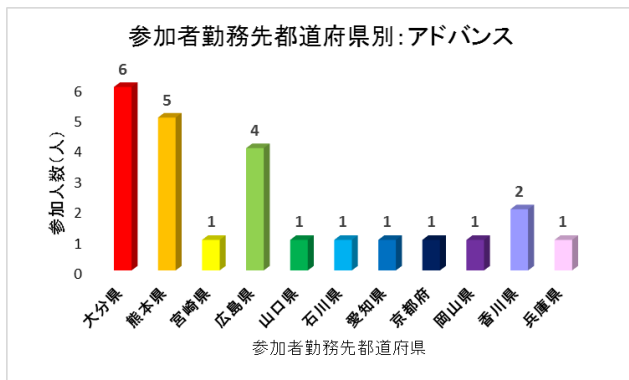
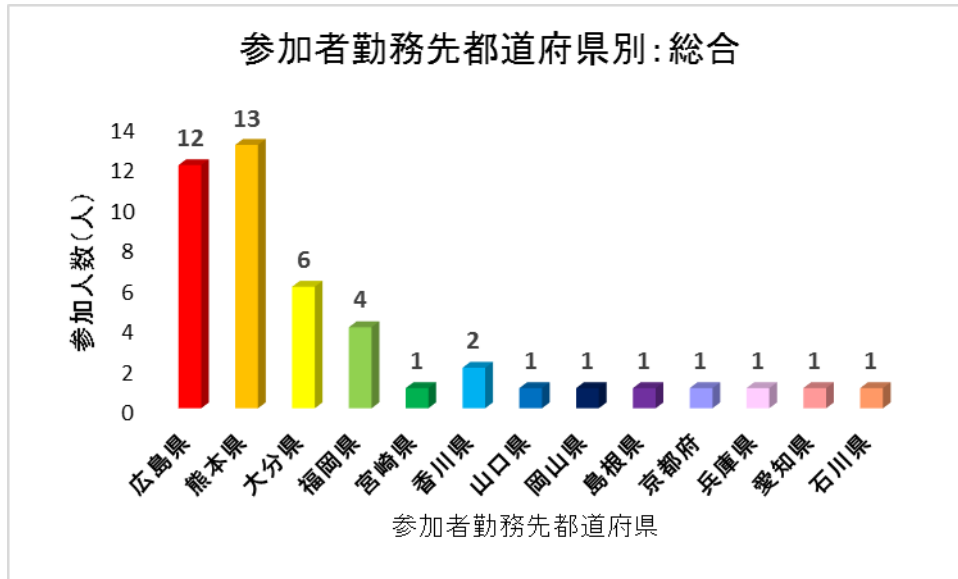
【参加者概要】

基礎コース：21名

アドバンスコース：24名

計：45名



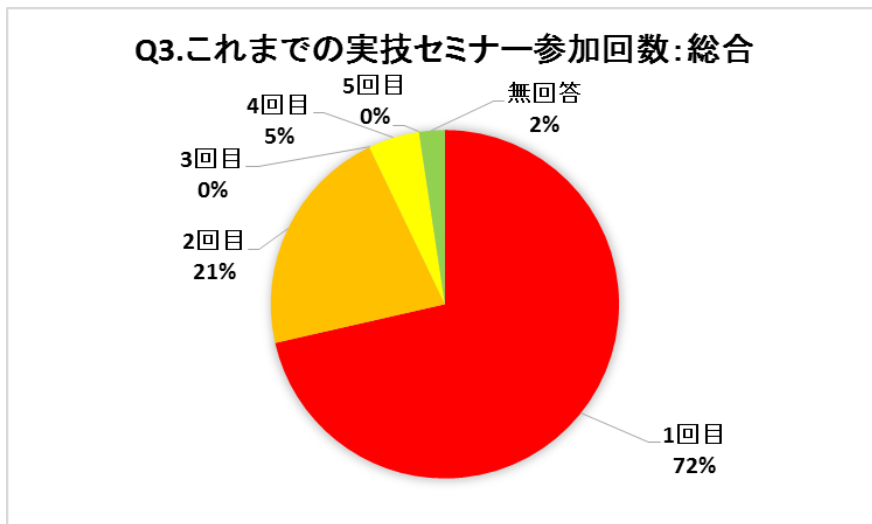


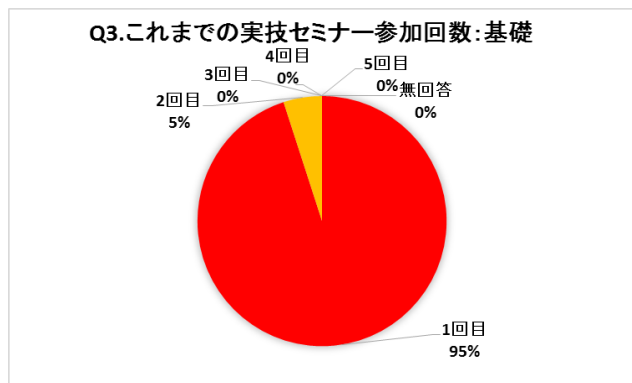
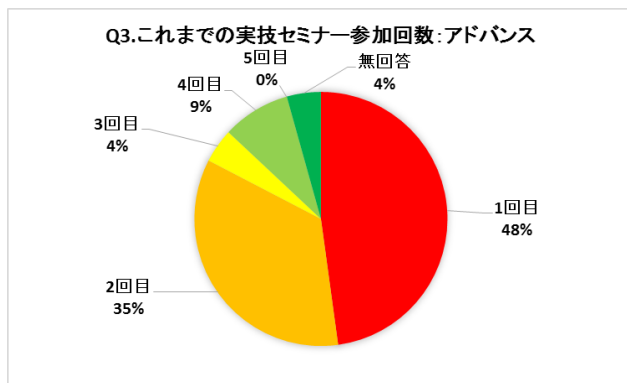
【アンケート結果：Q3～7*Q1.2 は参加者概要参照】

アンケート回収率

	回収数	配布数	回収率
基礎	20	21	95%
アドバンス	23	24	96%

Q3 これまでの KTSM 実技セミナーへの参加回数と参加理由をご記入ください。





<コメント>

～アドバンスコース～

- ・スキルアップ
- ・食事介助の方法を身に付けたいと思ったから
- ・認知症の方で、食事を拒否したり、口が開かなかったりという方がいらっしゃるの、どう対応したらいいかわからなかったの、勉強して利用者様に活かしたかったから
- ・自分流のやり方で患者さんに迷惑をかけていると感じていた。手技の取得、基本手技の確認をするために参加させていただいた
- ・当院において「口から食べるケア」を強化するにあたり、一員として、勉強（知識）不足のため、知識・技術向上のために参加させていただきました。
- ・摂食嚥下障害に対する評価方法や介助技術を学び、院内の「食べるケア」チームの一員として活動できるようにするため参加させていただきました。
- ・基礎技術を身に付けるため
- ・食に関わる全てのことができる現場で動ける管理栄養士になりたいと思い、参加しました
- ・1度目のセミナーで、これまでの食事介助はただ食べさせていただけで、何の技術もなく食べさせていたのだとショックを受けました。また食べることで患者様が元気になれるのを実感できるようになり、もう一度参加したいと思いました。
- ・高齢者の摂食嚥下障害に対して多職種協働で診療を行っているが、私に知識・技術が不足しているため、十分な結果が得られていないと感じていた。共通言語を得て、質の高い診療を行いたいためセミナーに参加した。
- ・スキルアップと KT バランスチャートの具体的な取り組み方法について知るため
- ・評価から食事介助のスキルアップ
- ・2回目（熊本・広島）
- ・安全・安楽な食事介助やスクリーニング評価をするため。アセスメント能力向上し、根拠をふまえて介入ができるようになるため
- ・初めての参加
- ・小山先生の講演を聞いて
- ・日々のケアの振り返り、スキルの確認、自己の弱みを知る
- ・知識と技術のスキルアップのため

- ・認定課程で学んだことを実践と結びつけていくことの難しさを日々感じています。実技を患者さんの視点を体験しながら学ぶことができ、勉強になりましたが、実践し続けていくことの大切さ、難しさを感じたので2回目の参加をしました
- ・KT バランスチャートでの評価について学べる機会であることと、自身のスキルアップができるといいなと思いました
- ・アドバンスコースで事例に基づいた演習や、日常自分のやりやすいように食事介助してしまっており、再確認をするため
- ・アセスメント能力、技術を高め、日常のケアに活かすため
- ・自分の技術のスキルアップのため
- ・知識不足・技術不足を解消するため（スキルアップ）
- ・小山先生をはじめ KTSM の先生方からの実技指導をいただき、日々実践していくことを目指して頑張っていますが、まだまだ力不足であり、院内へ「食べる」ことを広めていくことがなかなか進められないのが現状です。そのため、もっと先生方からご指導いただきたく参加させていただきました。
- ・小児の経験しかなく、いざ成人の分野で活動するときにとっても不安が多かった。スクリーニング方法については、卒業してからほぼやっていなかったもので、もう一度正しい技術を習得して実施したいと思っていました。また、食事介助方法については、普段自分の介助のくせがついていると思ったので、もう一度意識付けのためにも学びたいと思い、参加しようと思いました。

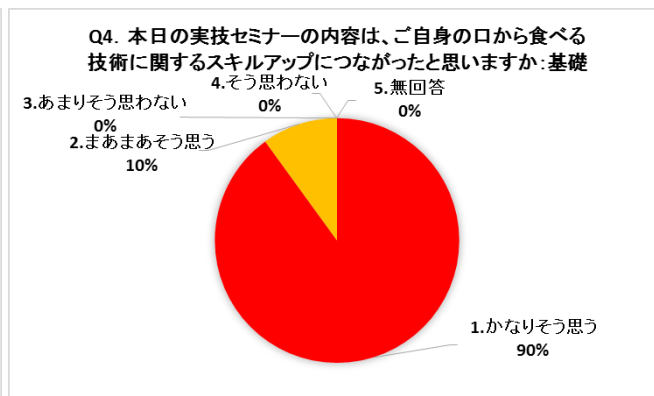
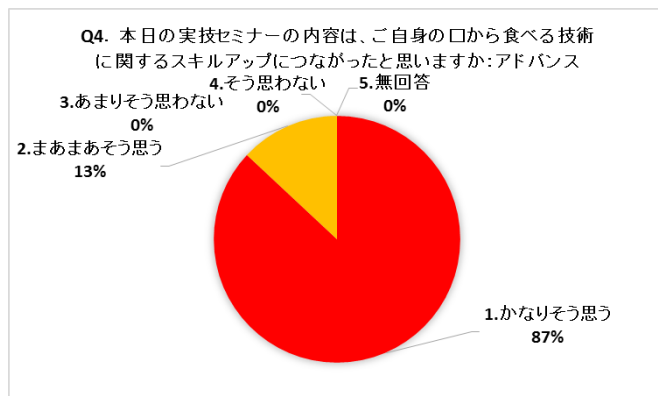
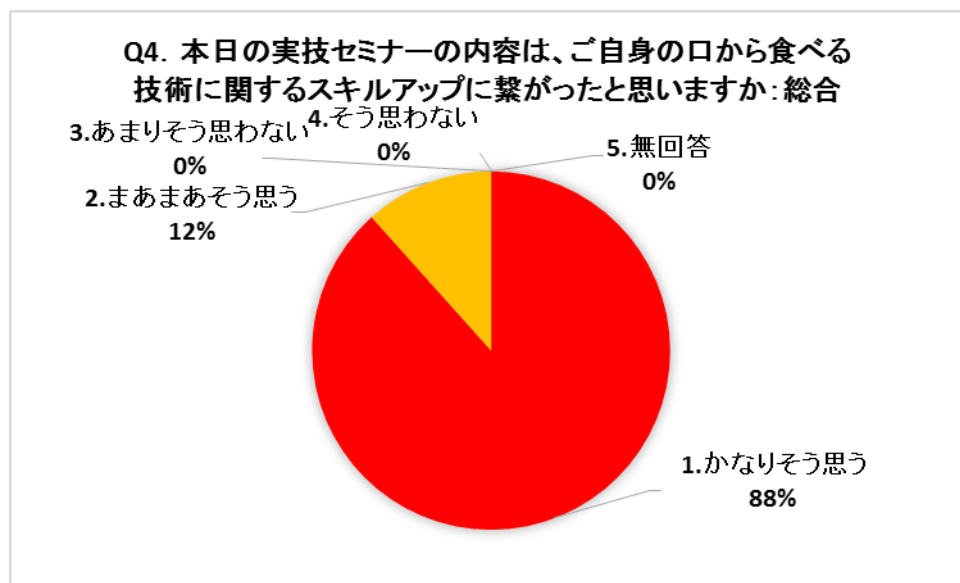
～基礎コース～

- 客観的な評価方法を知りたくて
- 病院で「口から食べるプロジェクト」を立ち上げ、その活動に活かすため
- 実技を行いたい、マスターしたい。日々の食事介助に自信がない
- 初めての研修参加です。食事介助をする機会が多く、参加しました
- KTSM 実技セミナー受講している上司より必要性を勧められたため
- 嚥下スクリーニングテスト、ポジショニングを学びたかったため
- 患者様に経口摂取して、おいしさを味わっていただきたくて
- 今回2回目です。自分自身のスキルアップ
- 熊本桜十字病院で小山先生の回診に参加させていただきました。私は福岡桜十字病院でNSTに所属しています。みさせていただいたことをスタッフへ周知しましたが、再学習と自分のスキルアップのため、さらなるスタッフへの周知のために参加させていただきました
- 経腸栄養、絶食の患者様が多いため、口から食べられるように援助するにはどうしたら良いか学び、NST 委員としても他スタッフへ伝達していきたくかったから
- 勤務先の病院より案内があり、参加させていただきました
- 病棟では間接訓練しか実施できていなかったため、評価・観察・実践できるようになりたいとお考えたため
- KT バランスチャートの活用を具体的に行うために学びたかったことと、広島でのリハ

栄養学会でのハンズオンセミナーに参加させていただいて、もっと学びたいと思ったこと、また実技セミナーというところが最大の魅力です

■医師から絶飲食を言われ、食べるなら自己責任でと言われている。誤嚥性肺炎を防ぐ食べ方の技術を学びたいと思い、参加した

Q4 本日の実践セミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか。



<コメント>

～アドバンスコース～

・今まで、口の中のことや姿勢・ポジショニングについては他職種の方にまかせていたので、私もできるようになって、利用者の食べる食環境から食事介助までのサポートがやりたいと思うきっかけになりました。食事介助の方法を教えてもらい、利用者様の観察ができてなかったことや、今までの介助方法ではいけないと感じました。

・複数回参加させていただいて、実勢に活かしてきた。しかし、参加するたびに、そのやり方の間違い、新しい発見等を確認できた。学んだスキルを継続・実践できるように努力したい。事例課題の添削で、たくさんのアドバイスを頂いたことで不足部分に気付くこと

ができた

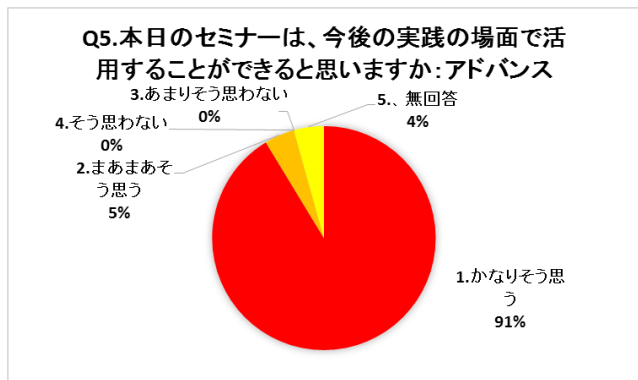
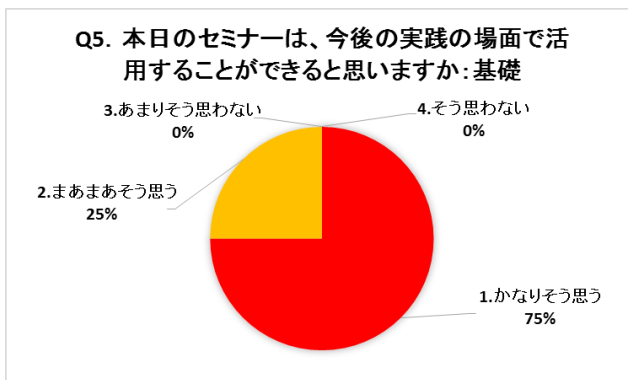
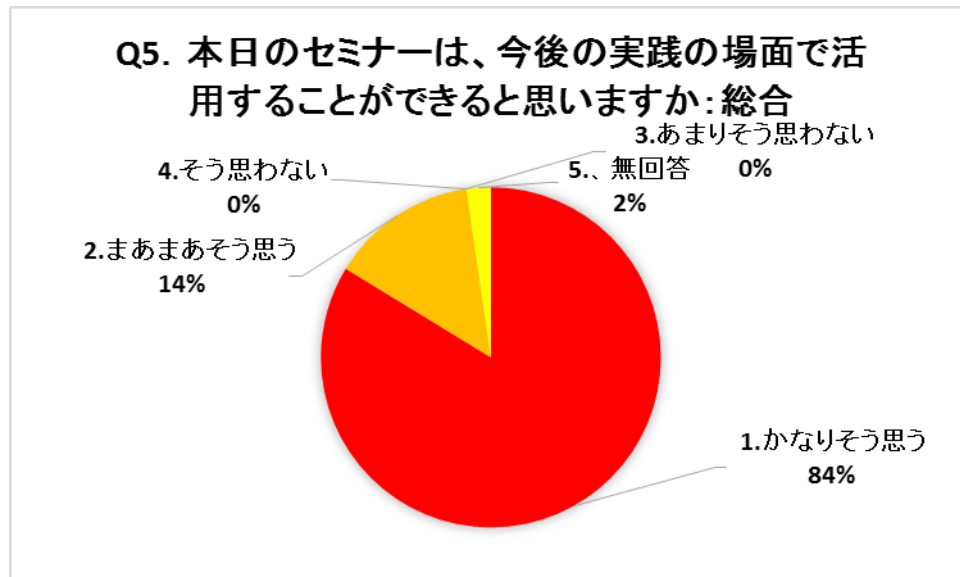
- ・誤嚥性肺炎・認知症の摂食嚥下障害の患者を看取ることが少なくなかった。前述したような知識・技術の不足が過少診療になっている可能性を懸念し、セミナー参加した
- ・病態の知識が少なすぎることを自覚しました
- ・1回2回と参加させていただいて、まだまだ参加していかなければいけないと思いました。スキルアップのためにトレーニングを行っていきます
- ・再確認もできた。また自分の技術面で不足なところがわかった
- ・患者体験、実践したことを続けていけるようにしたい
- ・食べる技術のスキルアップのためには、アセスメントが大切なことを改めて気づきました。そして患者像を書面に落とすためには、情報をきちんとまとめておかなければと思いました
- ・これから自施設に戻って継続していくことでスキルアップを図りたい
- ・一番自分の中で苦手としていた口腔ケアについて教えていただき、明日から実践できるよう頑張っていきます。
- ・アシストやスプーン操作の方法について、実際に自分自身も体感して、こんなに圧をかける必要があったのだ、など気づくことができ、より学びが深まりました。
- ・基礎とは違い、机の位置やお盆の位置など、病状によって使い分けないといけないということを小山先生に教えていただき、大変勉強になりました
- ・スキルアップに繋がったが、自分の知識不足・勉強不足を実感した。
- ・強み、可能性を引き出すためのアセスメントや技術が不足していたことに気づきました
- ・自己のスキル不足、弱みを知ることができました。弱みを強みに変えられるようにしていきたい
- ・スプーン挿入角度が思っていたよりも角度がなく、気づきがあった。また、根拠を持った技術ができていないことを実感したので、アセスメント能力アップを図る

～基礎コース～

- 実技があり、患者の苦痛・安楽体験を実感でき、自分の技術の振り返りになった
- 食事形態に合わせて舌のどの位置に置くか注意しなければならないということが特に印象的でした
- 食事の早期の経口開始の大切さ、患者さんの残存機能をサポートした介助の方法が学べたと思います
- スプーン操作があんなに重要で難しいとは思わなかった
- 今まで介助してきた1つ1つの行動が間違っていたことがたくさんあり、1から本を読んで介助知識・技術を身に付けたいと思いました
- 必要性や手技は学べたが、実際やると全然できておらず、その点ではまだまだスキルアップしたとは言ってはいけない立場だと感じました
- スクリーニング実施や食事介助について、今まで自分で行っていることが今回の研修でもう一度認識できた
- 本日基礎コースで学んだことは覚えることができました

■体験させてもらったことで、体感できたことは本当に良かったです。本日体感したことを日々のケアで実践してみて、また学び、繰り返してスキルアップしていきたいです

Q5 本日の実践セミナーは、今後の実践の場面で活用することができると思いますか。活用できる場合はどんな場面で活用できるか具体的にご記入ください。活用できない場合の理由もお願いします。



<コメント>

～アドバンスコース～

- ・車椅子のシーティング、スプーン操作などの技術
- ・クッションの使い方
- ・人のせいにしてた自分に気付くことができた
- ・食事介助を行う場合で、利用者様の観察をして、考え、サポートしていきたい。口が開かない方の食事介助や片麻痺の方に対する食事介助を行っていきたい。
- ・開口・閉口のアシストのやり方の根拠。シーティングの方法
- ・ポジショニング、スプーン操作、テーブルの配置、バランスチャート
- ・患者様のアセスメントをきちんと考えて、それに合った必要なアシストを行っていききたい

- ・ポジショニングの注意点、スプーンでの介助方法（操作方法）、キッチンと患者さんに見せながら行う、アシストの方法
- ・今後 NST 活動の方向性提案に利用できる言葉がたくさんありました
- ・NST 回診時、食事介助場面も見ていくので、その時に確認していく。またリハビリ時の介助場面にて活用していく
- ・日々の実践でも活用できる。また院内教育の中でも活用できる
- ・訪問の摂食嚥下リハビリで、より幅広い方々に食べるためのアシストに活用したいと思います
- ・患者さんの視線やポジショニングによる影響
- ・食形態によってスプーン介助位置の違いや体幹角度の違い
- ・看護師勉強会等でスプーン操作など皆で共有できると思います
- ・自分の仕事の各所で活用できそうです
- ・施設や在宅への訪問をした時、ヘルパーの手が足りずに食べれていない患者さんが多々いらっしゃるので、積極的に関わっていこうと思います
- ・円背の方のポジショニングは実践してみようと思う。注意障害の人に本当にちゃんと見せているかについても見直したい
- ・吸引をしながらの口腔ケアは当院で実施されておらず、ガーゼでの拭き上げであるため、今後実践し広めていきます。
- ・病棟の患者さんのほとんどが全介助で食事をしているため、しっかり見せること、スプーンの運び方、アシストの方法など実践することができる
- ・嚥下機能評価（スクリーニング）、食事介助、ポジショニング、シーティング
- ・根拠を持った技術を提供できるようにしていきたい
- ・包括的に見る、その項目をしっかりアセスメントしていく。介入が介入結果を段階的に見ていくのに活用していきたい
- ・口唇閉鎖、ポジショニングや患者様への介入を包括的に行うか、アセスメントする必要が改めて実感したので、実践でも患者様の強みを見つけていきたいと思う。

- ・いつもの食事介助場面

- ・困難患者へのアプローチ

～基礎コース～

■実際の患者の介入に入る

■現在は食事介助に携わっていないですが、いざする時に少しでも知識も持っていた方がより良い食事介助ができそうです

■現場にたくさんの欠食からの食事開始という患者様がおおり、食事開始時のリスク管理、食べ物の形態に合わせた食事介助を提供できると思います

■患者に食べ物を見える位置、90度ルール、スクリーニング時のスピード

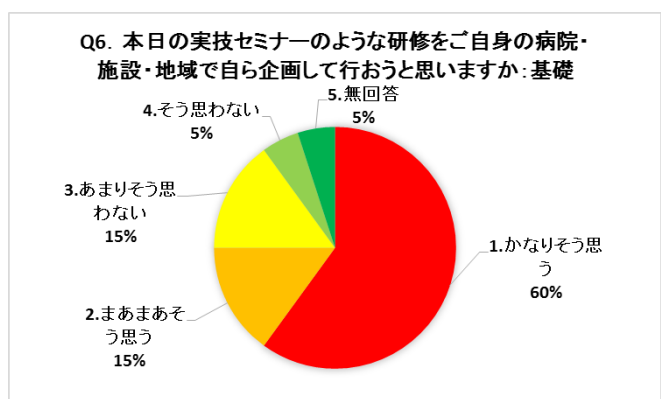
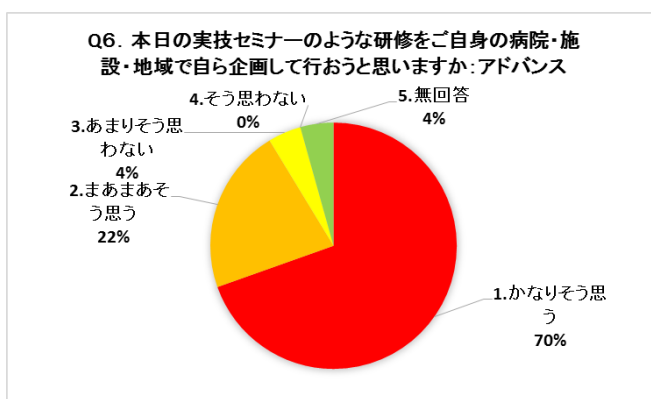
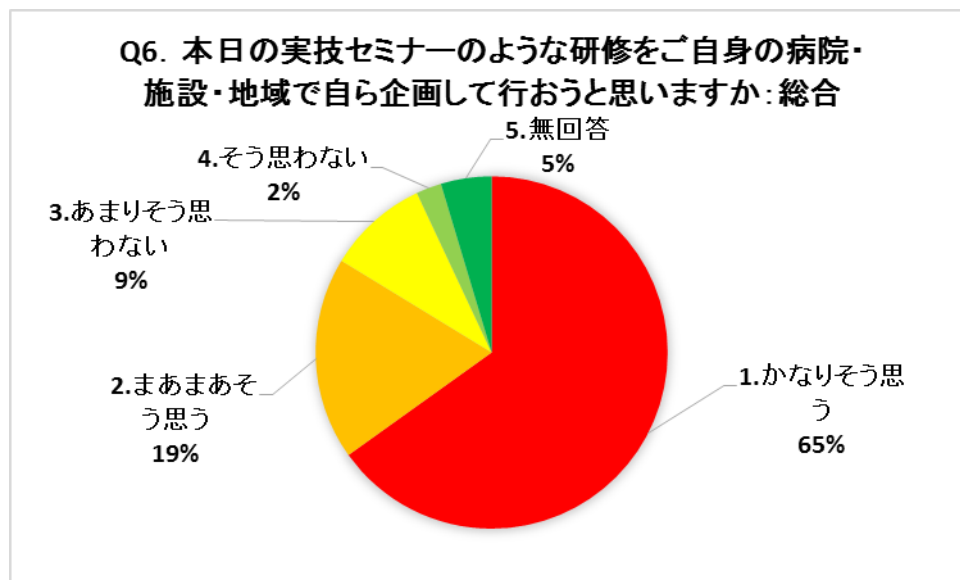
■院内の食事介助時

■明日から介助に活かせたらと思います

■できるよう、日々意識していく必要があります

- スプーンの動かし方、姿勢、環境、体位
- 今後地域での食事介助にも同行していきたいので
- フロアに集まって食事しているため、摂取量だけでなく、姿勢もしっかり見ていきたい
- 現在摂食の場面に介入していますので、介助を行う時、また他職種が食事介助を行う場合にも指導できればと思います
- 食事のポジショニングとテキストの内奥に沿って活用できるようになったと思う
- ポジショニング（食事場面での具体的な）を初めて学びました。肘の位置に関する注意点が良く分かりました。様々な工夫をして現場で取り組んでいきたい
- 食べる姿勢、スプーンの使い方を実践したい

Q6 本日の実技セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思いますか。1つ〇をつけ、あれば具体的にご記入ください。



<コメント>

～アドバンスコース～

- ・ 何かとても悔しく、これから自分は変わります。
- ・ 食事介助の方法や自分が介助される側を体験してもらい、正しい食事介助を知ってもら

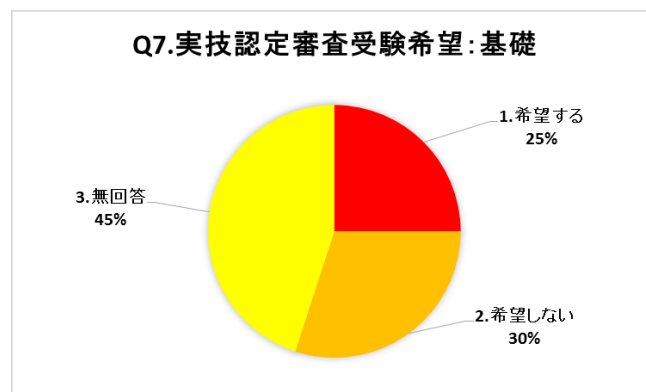
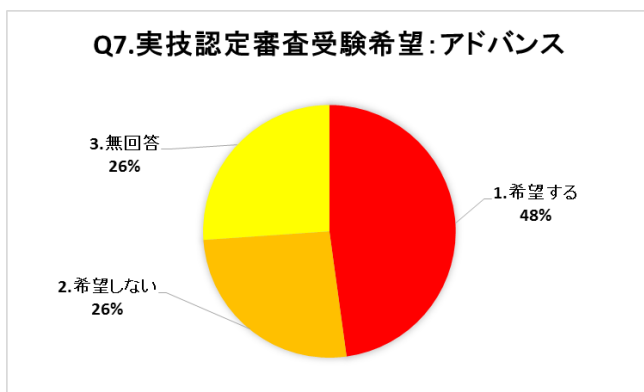
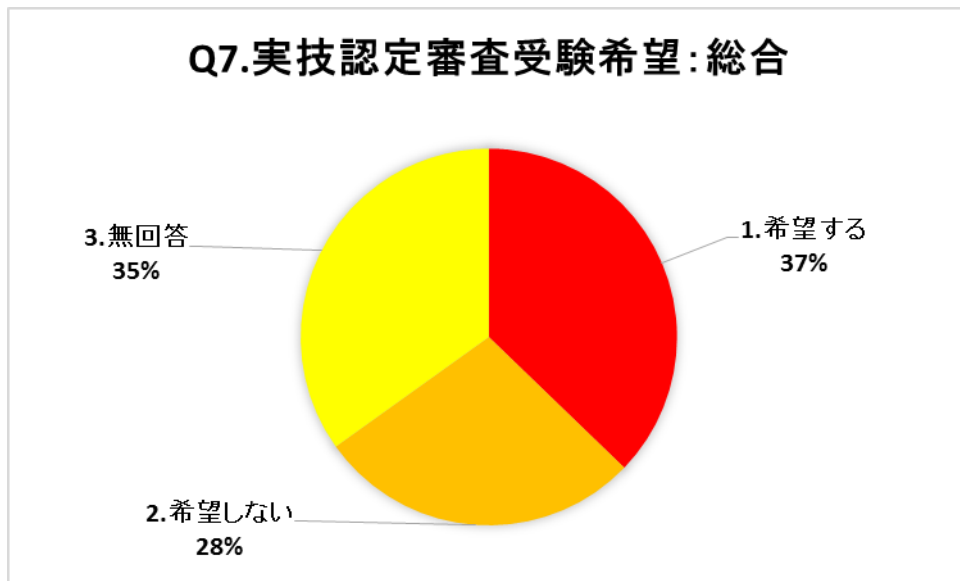
いたい。

- ・自己のスキルアップやスタッフへの知識向上・共有のために、行いたいと思うが、まだ関わり始めたばかりで自信がないです
- ・まずは「食べるケア」チーム内で、今後の活動について検討し、患者さんへ介入する前に、自分たちで知識・技術の確認をしようと思います
- ・当院は老健・学校も併設しているので、病院・老健・学校を合わせてしたいです
- ・桜十字病院にて
- ・院内での支援看護師・院内認定コースで研修に役立てたい
- ・大分チックの平成 28 年 10 月に開催していただく予定です。アドバイザーとしての参加を目指して自信の実技の向上、伝える技術を向上できるように努力を続けていきたいです
- ・熊本の認定 Ns や実技指導をしてくださるアドバイザーの皆さんと協力して、地域へ発信していけるようなことをしたいなと思いました。
- ・四国開催できるように頑張りたい
- ・当院では、年 2 回摂食嚥下チームからの研修を行っています。昨年の KTSM 研修での実技などの研修内容も取り入れ、研修を行いました。今回も同様に研修を院内で行いたいと思います。理想は「地域へ」です
- ・まずは自分自身がしっかりできるようになってから伝達していきたい。具体的にはポジショニング・スプーンの運び方・見せ方など食事介助に関わっている職種の人に知ってもらいたい。
- ・自分に本当に実力がついた時に企画できたらと思います
- ・スタッフの意識が高まればと思うが、難しい
- ・自己のスキルをしっかり身に付けたい
- ・食事介助技術
- ・実現に向けて、まだ考え中です

～基礎コース～

- もっと自身の技術・知識を身に付けて、是非自身の病院で研修を行いたいと思う
- まだまだ他の人へ指導するレベルではないので、もっと知識をつけてから・・・
- NST 委員会や口から食べるプロジェクトチームと協力し、さらに学んでいきたい
- まだまだ自信がありません
- まずは患者お一人お一人・・・合った姿勢やポジショニング、スタッフの周知徹底、統一した介護ケア
- ナース、ケアワーカーへの勉強会、NST 委員への再周知と伝達・・・1 度済んでいます
- 患者体験を行い、苦痛や食べやすい姿勢を体感してもらいたい
- NST の中でやっていければと思います
- まだ十分ではないと考えます。アドバンスコース受講後、既にアドバンスコースを受講されている先輩と企画したいと思います（その時は主体的に）
- 食事に関する委員会を管理栄養士と企画しているので、施設内で取り組んでいきます

Q7 今後も KTSM の実技セミナー開催を全国で開催予定です。その際アドバイザーとして活動するために、次のステップであるKTSM実技認定審査を受けることを希望しますか。



実技認定審査受験希望

	1.希望する	2.希望しない	3.無回答
アドバンス	11	6	6
基礎	5	6	9

<セミナーの様子>





<セミナーを終えて>

第 22 回 KTSM 実技セミナーは、基礎コースとアドバンスコースの同時開催となり、多くの方々にご参加いただきました。口から食べるための包括的支援を目的とした、KT バランスチャートの活用についての講義から、スクリーニング評価・食事介助演習など、多彩なセミナー内容となり、参加された方々の満足度の高さはもちろん、スキルアップに繋がる充実したセミナーになりました。皆様、ありがとうございました。

